しずおか平和の風

No22
2017年２月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

静岡市平和委員会総会開かれる

静岡市平和委員会は1月28日、２０１７年総会を開きました。委任（69名）を含め出席は81人でした。

平和憲法を破壊し、改憲を狙う安倍政権の下、私たち平和委員会の活動はまさに正念場を迎えようとしています。情勢討議と活動報告の後、活動方針と新役員が承認されました。昨年の役員に加え、新たに副会長に海野順二さんが選ばれました。

出席された小林三郎さん（顧問）に感想を寄せて頂きました。

＊＊＊＊＊＊＊

（一）

総会は論議の中で、近づくビキニデー、被爆者署名活動、核禁条約への見通し、最近のアメリカ大統領選挙と国際政治の問題について理解を深め、且つ平和委員会と各種平和核禁団体などとの連携協力、県内外各地域の活動を話し合った。浜岡原発や平和教育について具体的で真剣な発言があった。

総会はすべての事案について異議なく、満場一致で採択された。

（二）

総会論議を通じて、私には「核兵器廃絶の活動の進展と現実世界の構造変化」をどのように理解するかという問題に最大の関心があった。

お粗末且つ無責任な感想的理解では、現段階の核廃絶をめぐるたたかいは最も急迫した地点に差しかかってきていると思う。

昨年暮れの国連総会では、核兵器禁止条約交渉開始賛成の国々が１１３か国に達している。世界の圧倒的多数の国々が協力して核禁条約を結ぼうと呼びかけたのである。これに対して核大国とこれに追随する日本を含む数か国が反対した。

この双方をめぐるたたかいが国際政治の焦点となっているのであろう。そして、この焦点の中身は①友好と憎悪、②話し合いと拒否、③協力と分裂にあるのではなかろうか。

私たちは今までこの焦点の前者にあって、その最先端のたたかいで、名誉ある地位を占めてきた。

これは実に誇るべきことではあるまいか、自信をもっていいことではあるまいか。これからも、この期に及び、一層力を尽くして名誉ある路線を強め、踏み固めていかねばならぬと思う。

（三）

平和問題と関連してこの際以下二点について述べておきたい。そのひとつ。

「民族間の対立や文明間の対立」が、現代世界の根本矛盾だから、この解明こそが平和問題の中心になるとする意見がある。テロは悪いが報復戦争はいいなどと論証抜きで主張するアメリカの新大統領の発言がそれだ。

このような意見の背後には必ずや、民族間（宗教を含めて）文明間の不和をかきたてて争いを増幅させ、その結果自国と大企業を儲けさせようとする企みがあることは明らかではないかと思う。

そのふたつ。原子力エネルギーについて。はっきり言って「原子力エネルギーは破壊力でこそあれ、生産力ではありえない」ということ。少なくとも、現在の資本主義社会のもとでは原子力発電にしても、原子力動力にしても、生産力発展の対立物であって、「平和利用」など幻想に過ぎないと思う。ＩＴ化が進み、新しい技術開発、科学的革新があったとしても現行制度のもとでは決して原子力エネルギーは生産力足り得ないと、私は確信している。

つむじ風

アベノミクスの下心

２月４日、経済学者の浜矩子さんの「どうなる？私たちの暮らし―アベノミクスの真相」と題する講演を聞いた。

浜さんは、アベノミクスを早い段階から「アホノミクス」、最近では「どアホノミクス」とまで言い切って批判してきた。この「アホノミクス」の隠れた狙い、つまり下心は、ＧＤＰを拡大し、それによって軍備を強化しかつての強い日本を取り戻すことにあるとする。

異次元の量的緩和、マイナス金利導入など打つ手が次々と失敗、破たんが誰の目にも明らかになっているアベノミクスだが、その失敗を取り繕うために、同一労働同一賃金、女性活躍推進、地方創生、働き方改革など耳当たりのいいことを打ち出してきている。

これらアベノミクスの弥縫策（びほうさく）は、それぞれが危険な狙い、つまり下心をもっている。浜さんは、それを十分に承知した上で、「中身を一つ一つ考えるのは馬鹿げている、無条件に全否定、個別的な甘言に惑わされず、全てが「戦後レジームからの脱却」つまりは、「大日本帝国」に収斂されていくことを片時も忘れてはならない」と断じた。痛快である。

（合戸 政治）

風の子

美和地域に図書館ができたことをきっかけに、読書会を立ち上げ、月１回のペースで会を開いています。今年で7年目を迎えます。

この1月の会では、竜爪山九条の会の北野先生から「漱石アラカルト」と題する話をしていただきました。

北野先生は、元々高校の地理の教師ですが、東京に憧れていたことで東京の漱石在住の地や作品に登場する場所をくまなく訪ね歩いたとのこと。

漱石の作品は、奥が深く、当時（明治～大正）の社会や政治に対する批判的見解が書かれている。戦争と平和についても語られているとの話に読書会参加者は驚き、感心しました。

生誕１５０年（昨年）、没後１００年の節目の今年、改めて漱石の作品を読み論じることの大切さを感じました。

竜爪山九条の会が3月5日に予定している講演会の講師、小森陽一先生も漱石の研究者、お話を聞くことが楽しみですね。

美和在住　新村　直樹

洗脳されて特攻隊に

松永　安太郎

私は庵原の農家で、祖母、父、母、姉六人兄弟の十人家族、五男として生まれました。

庵原尋常小学校に入学。悪戯が得意で、のんびりした細長い先生に「スットン」とあだ名をつけた。怒る先生には、教室の入口に黒板拭きを。白墨箱に蛙を入れる。蛙の飛び出した時の先生の顔、教室中の笑い声、先生のびっくり顔を思い出す。何時も鞭でたたく先生には、授業放棄をする悪戯坊主だった。

休みの日には川でドジョウ、フナ、シジミ採り。ドジョウは小遣い稼ぎになった。春は山にワラビ、ゼンマイ、イタドリをとった。塩や炭酸をいつも持っていて、イタドリに塩、夏ミカンには炭酸をつける。サイダーのよう。秋は稲刈りを手伝い、イナゴとり、山芋掘り。チャンバラ、ビー玉、メンコなど、集団で日暮れまで遊び、冬は麦踏み。

陸上競技、相撲で県大会に出場、相撲は昭和16年県学童選手権大会（読売新聞社主催）で優勝した。

叔父は、軍服の胸に金鵄勲章、腰に軍刀、襟に大尉の徽章を付け、八の字髭のりりしい姿で時々来てくれる。庵原中学校（現東校）軍事教官で、戦地で機銃や大砲など目の前で爆発し、吹っ飛ばされたとか負傷者続出の中、戦ったという話を聞いて、自分の血潮が燃え上がり、洗脳され、軍国少年になっていった。

長男は召集され、北支方面の戦地に、次兄はガタルカナル島へ行く予定だったが、病気にかかり、病院生活。三兄は徴兵で内地勤務となった。

昭和18年6月、少年志願兵に合格。地元のお宮様に無事に頑張れるよう祈願。家族、親戚一同、友達などの千人針を腹にまき、町内会長はじめ町内の皆さんの握手や肩を叩いて「頑張ってね」と、役場まで歓呼の声に励まされ、感激した。

目指す横須賀海兵団入団。官品として衣類一式、靴、筆記用具、洗面具、針、糸など消耗品を含む品を貸与された。翌日から食事当番、洗濯、学習、起床、就寝などの説明。

戦争体験を語る松永安太郎さん
2016年12月18日
北部生涯学習センターにて

吊り床の吊り方、格納練習、なかなかうまくできない。寝てもずり落ちて困った。夜中にずれ落ちる者もあった。要領がわかり落ちることがなく眠れるようになった。

朝6時起床。ラッパで飛び起き、吊り床格納、洗面、運動場で体操、朝食、洗濯、学習と続く。体操は腕立て、ランニング、梯子の上り下り、競争など。学習は電気、機器の取り扱い。中隊長の戦争に対しての精神訓話。

突然、備品、持ち物のチェックがあり、班員の中に不足のものがあると、班全員の注意が足りないと全員が罰を受けた。精神棒で尻を三回叩かれる。一回叩かれ、次の二回目に尻を下げるので腰骨にあたり、大けがをするので、尻を下げないように我慢する。叩かれると、一週間くらいは吊り床に上向きでは寝られなくて横か下向きで、寝苦しい夜が続く。その夜はいびきではなく泣き声だけの長い夜である。3～4回あったと思う。

これからもそんなことが続くのだろうと、自殺者も何人かでたと噂がささやかれたこともあった。我々の班では、備品や持ち物の不足が出ないように話し合い、夜間、洗濯物を取り込む時、他班のものを拝借したこともあった。

「精神棒」とは、野球のバットのヘッドより太く長いもので、オスタップ（鉛の大きな洗濯桶）に、精神棒を漬けて叩くと、水の飛沫がとび威力がある。尻は真っ青である。

洗濯は辛い。冬は洗い場のコンクリートの上を素足で行くのも訓練。厳しい。洗濯後の片付け、穴のあいた靴下は石鹸を入れて縫う。シャツ、ズボンなどは布をあてて縫う。ボタン付けなども家にいた時もやっていたので上手にできた。体力、技術、学習、分隊長の精神教育、講話などで洗脳される。

訓練の合い間に分隊での相撲大会が計画され、教官を含め40名くらい。トーナメントで試合があり、見事に優勝。班長から「よくやった」と労いの言葉があった。

学習の総仕上げは辻堂演習。ゲートルを巻き、銃を担いで松林の中の匍匐前進。小雨の降る中、汗と泥にまみれ、全員死に物狂いで頑張り、演習が事故なく終了。終わりに近くの家庭で昼食。熱いみそ汁、沢庵に野菜、久しぶりの畳は何ともいえなく安堵できた。どの隊員も同じ気持ちだったろう。

隊員はそれぞれ希望の基地へ、笑顔で別れた。

昭和19年10月夜半、横須賀海兵団を分かれ一路、特攻基地大浦に配置され、特攻隊員となる。先輩たちに大歓迎され、隊員としての自覚を胸に受け止めた。

戦況厳しく、基地はB29艦載機の日夜の攻撃で、ほとんど防空壕生活で、寒地訓練はできず蚊竜の座学講義のみだった。

先輩たちは夜陰に紛れて出撃したと思われる。わたしは先輩と同艦しての出撃命令を待つ。「蚊竜」とは、特殊潜航艇のことで、秘密兵器である。魚雷2本を搭載し、発射後、敵艦に体当たりする人間魚雷である。ハワイの真珠湾、オーストラリアのシドニーで体当たりしている。洗脳されているので、体当たりすることを恐ろしいとは思っていなかったので、遺書なども作成していない。

昭和20年8月、任務遂行前に終戦となった。天皇の言葉を講堂で隊員一同で聞き、悔しさいっぱいで、泣く者は一人もなく、机や椅子を蹴飛ばし、うっぷんばらしをし、部屋へ帰った。その後隊員は身の回りの処理、基地内の整理、焼却処理を済ませ、21年に帰郷した。自宅についた時、母は煮物をしていた。

平和行動予定表

◇◇ ２月 ◇◇

26日　静岡市原水協　ヒバクシャ国際署名行動　12～13時　青葉公園前
27日　日本原水協1国際交流会　14:30～17:30　静岡グランシップ
28日　日本原水協全国集会　13～15時　グランシップ中ホール
　　分科会（1～6分科会）15:30～18:30　グランシップ内

◇◇ ３月 ◇◇

1日　3・1墓参行進　9:15　焼津駅　墓前祭　10:30～11:30　弘徳院
　　被災63年3・1ビキニデー集会　13:00～15:30　焼津市民文化会館
4日　国際女性デー集会　13時～　産業経済会館
5日　小森陽一講演　14～16時　（リンク西奈）　竜爪山九条の会主催
11日　福島を忘れないメモリアルデー集会　12時～　常盤公園
19日　戦争法廃止　宣伝・パレード　17時～　青葉公園前
22日　ヒバクシャ署名　12～13時　青葉公園前